

令和 6 年（2024 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：沖縄県石垣市

協定締結日：令和 2 年 3 月 24 日

活動状況：継続中

連携先窓口：石垣市農林水産商工部農政経済課

活動資金：寄付金

担当教員（所属）：千葉 晋(海洋水産学科)、上岡美保(国際食農科学科)、
大林宏也、江口文陽、澤田 葵(森林総合科学科)

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：上田智久(自然資源経営学科)、千葉 晋(海洋水産学科)、
上岡美保(国際食農科学科)、大林宏也、江口文陽、澤田 葵(森林総合科学科)

活動目的：石垣市の地域産業資源を利活用した 6 次産業化と人材育成
下記事項の連携と推進を目的とする。

- （１）地域産業資源を利活用した 6 次産業化と人材育成に関する事項
- （２）環境保全・地域づくりに関する事項
- （３）教育・文化振興に関する事項
- （４）就職支援に関する事項
- （５）農林水産業振興に関する事項
- （６）その他石垣市と東京農業大学が相互に必要として考える事項

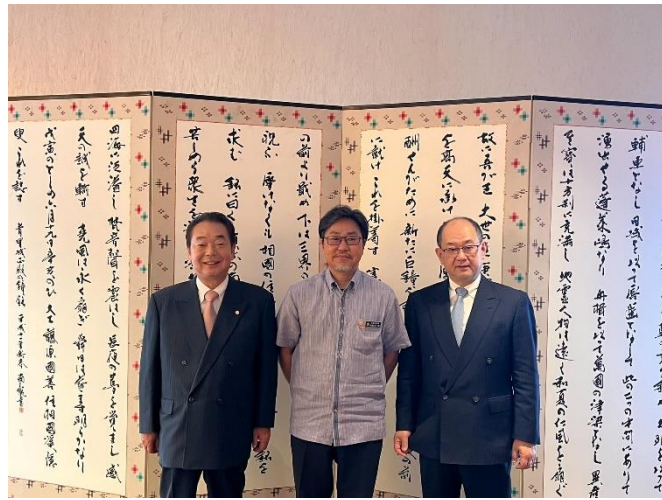
活動内容・成果：東京農業大学は、石垣島の農林水産物および伝統食品である
"ハーブ類"、醸造飲料である“泡盛”などの研究に取り組み、それらの希少価値を
解明するとともに有用性などの成果を確認している。また、石垣島で人工的に栽
培される微細藻類や新規農林水産物生産、(石垣牛・海ぶどう・ピパーツ)のブラ
ンド製品についても研究者・院生および学生が研究・事業に参画しており、これ
らの研究を契機として石垣島の産業振興、環境保全並びに人材育成等に寄与す
ることを目的とした連携をこれまでと同様に行った。前年度に増して内容は強
化された。

特にこれまでの成果としては、石垣島で微細藻類やハーブの生産基地を整備

している株式会社日健総本社(代表取締役社長 森伸夫氏)との共同研究が展開されており、産業政策や事業従事者の雇用実績として、東京農業大学は石垣島へ卒業生を多く輩出している。さらに沖縄県立八重山農林高等学校が東京農業大学の指定校となり、学校長推薦による優秀な人材を学生として受け入れることが、石垣市のサポートを受けて継続実施され、卒業生を石垣島での事業従事者として輩出する 7 年目となった。これらの活動は、年々強化されており更なる発展が期待されるとともに実装するための計画も多い。さらに小中高校生と大学との交流活動として石垣市教育委員会を窓口として、児童や生徒の東京農業大学サマーサイエンススクールへ招聘してきた。コロナ禍に島外への小中高校生による研修は一端中止となったが、2024 年より再開され小中高生を含めた石垣市民を対象とした講演が実施された。また石垣市や石垣市内に生産基地を有する株式会社日健総本社の計らいで、沖縄県立八重山農林高校での学長の出張講義が対面で実施された。それらの活動は、八重山日報、八重山毎日新聞や沖縄ローカルテレビでも紹介され、東京農業大学の石垣市への貢献が市民にも周知された。地域との連携による学問や研究に対する啓蒙活動などの実績も、これまでに増して挙げる事が出来た。

課題・改善点：これまでは石垣島と東京農業大学との連携は、教職員の研究と研究室の教育・研究活動を中心として行われて成果を得てきたが、さらに形ある事業展開へと繋げてゆく時期となった。前年に続き中山市長による招聘により、講演会も実施されたことで、次年度への新たな取り組みが模索されつつある。

我が国最大の総合農学を推進する東京農業大学との連携を強化することで、石垣市に専門的知見や助言、産物の付加価値が与えられ、農林水産物・加工食品の保蔵や産業振興の取り組みが活性化されることを期待して今後も取り組みたい。



(写真は沖縄県立八重山農林高校訪問による本学合格者と学長との面談（左）
と石垣市役所を訪問しての副市長との連携に関する協議と打ち合わせ）



(写真はハーブ生産農場での栽培技術指導 左 モリンガ 右 マンジェリコン)